

安全データシート (Safety Data Sheet)

作成 1993年9月1日
改訂 2019年10月1日

1. 製品名及び会社情報

製品名	シールピール ホットタイプ #011
製造者名	関東化学工業株式会社
担当部署	営業部
電話番号	03-3211-1861
FAX番号	03-3211-1865
整理番号	SH-001J

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理科学的危険性	引火性固体	分類できない
健康有害性	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器毒性(単回暴露)(神経系)	区分2
環境有害性	水性環境有害性(急性)	区分2
	水性環境有害性(慢性)	区分2

(その他の危険有害性は、分類できないまたは区分外または分類対象外)

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を引き起こす恐れ
吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を引き起こす恐れ
生殖機能または胎児への悪影響の恐れ
神経系の障害のおそれ
水生生物に毒性
長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- 保護手袋・保護衣・保護眼鏡・保護面を着用すること。
- この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- 【換気が不十分な場合】吸引用保護具を着用すること。
- 環境への放出を避けること。
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。

【応急処置】

- 皮膚についた場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
- 皮膚刺激または発疹が出た場合、医師の診断・手当を受けること。
- 吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 呼吸に関する症状が出た場合、医師の診断・手当を受けること。
- 暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断・手当を受けること。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 漏出物を回収すること。

【保管】

- 換気の良い冷暗所で保管すること。

【廃棄】

- 内容物や容器を、国際・国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名：熱可塑性樹脂(エチルセルロース系樹脂)

成分	鉱油	2, 6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール	ノニルフェノール
含有量%	52.00	0.04	0.03
化学式	特定できない	C ₁₅ H ₂₄ O	C ₁₅ H ₂₄ O
官報公示整理番号	特定できない	-	(3)-503
CAS No.	特定できない	128-37-0	25154-52-3

4. 応急処置

【吸入した場合】

- 被災者を直ちに空気の新鮮な場所へ移動させ、医師の診断を受ける。
- 呼吸が弱い場合は人工呼吸を行う。

【皮膚に付着した場合】

- 汚染された衣服を速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を冷水を流しながら洗浄する。
- 石鹼を使いよく落とす。
- 外観に変化が見られたり、痛みや刺激がある場合は速やかに医師の診察を受ける。

【目に入った場合】

- 直ちに清浄な流水で15分以上洗浄した後、眼科医の診察を受ける。

【飲み込んだ場合】

- 直ちに吐き出させ、水で口の中をよく洗浄した後、医師の診察を受ける。
- 意識のない場合は絶対に吐かせてはならない。

5. 火災時の処置

【消化方法】

- 初期の火災には粉末・炭酸ガス・乾燥砂などを用いる。
- 大規模の火災には泡消化剤などを用いて空気を遮断する事が有効である。
- 又、延焼の恐れが無いよう放水で周辺のタンク・建物などの冷却をする。
- 消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 常温では固体であり漏出ししない。
- 溶解中にタンクから漏れ出た場合には物質温度が高いため、乾燥砂・土などに吸着させて容器に回収する。
- 溶解場所の付近の着火源となる物を速やかに取り除く。
- 作業の際には必ず保護具を着用する。着火した場合に備えて消火用機材を準備する。
- 周囲の状況によっては、流出物質の温度を下げて固形化し回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

- (ア) 溶解作業は換気の良い場所で行う。
- (イ) 作業温度 180℃前後でわずかな煙を生ずる。発生した煙は吸引しないようにする。
- (ウ) 吸い込んだり、眼、皮膚、及び衣服に直接触れないように適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業し、暴露防止に十分注意する。
- (エ) 重い部品などを浸漬する場合、落下させないように注意する。
- (オ) 溶解中は、温度コントロールに注意してオーバーヒートを防ぐ。常温では引火の心配はないが、過加熱で引火点温度に達すると引火の危険性が生ずる。
- (カ) 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
- (キ) タンクを転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の粗暴な取扱いをしない。
- (ク) 一般可燃物として取り扱い、火気や可燃物を遠ざける。
- (ケ) 溶解中は温度コントロールに配慮し、温度上昇時の皮膜作業時の火傷に注意する。

【保管】

- (コ) 周辺に火気のない冷暗所に保管する。
- (サ) 消防法で定められる指定数量の 1/5 以上の保管は火災予防条例の規制を受ける。
それ以下の場合も火気のない安全な場所に整理整頓し、保管する。
- (シ) 指定可燃物(その他の合成樹脂類)指定数量 3,000Kg
- (ス) 段ボールの状態で積み重ねる場合には 4 段を限度とし、
安定良く積み重ねる。積み重ねる場合には地震による倒壊対策を施す。

8. 暴露防止措置

- 設備対策 : 室内での溶解作業は局所排気装置を設置する。
- 保護具 : 状況に応じ、保護眼鏡・保護手袋などを使用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観:	淡黄色透明固体	融点:	130℃
臭い:	潤滑油臭気	揮発性:	なし
引火点:	220℃	可燃性:	あり

10. 安定性及び反応性

当製品は安全で、熱や光、衝撃による発火性が全くなく危険な重合物を生成しない。

11. 有害性情報

呼吸器感作性	区分 1
皮膚感作性	区分 1
生殖毒性	区分 1A
特定標的臓器毒性、単回暴露	区分 2(神経系)

(その他の危険有害性は、分類できないまたは区分外または分類対象外)

12. 環境影響情報

分解性	データ無し
貯蓄性	データ無し
水性環境有害性(急性及び慢性)	区分 2

13. 廃棄上の注意

廃棄は廃棄物処理業者に委託処理する。

14. 輸送上の注意

船・トラック混載便可。

運送に際しては容器の転倒・落下・損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

15. 適用法令

国連分類:	国連の定義上該当しない
国連番号:	国連の定義上該当しない
労働安全衛生法:	表示対象物(鉱油) 通知対象物(鉱油)
PRTR 法:	第一種特定化学物質 (2, 6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール、ノニルフェノール)
火災予防条例:	指定可燃物(その他の合成樹脂) 指定数量 3,000Kg

16. その他の情報

参考文献 経済産業省 GHS支援ツール類 GHS混合物分類判定システム(Ver.4.0)(2019年3月現在)

各種材料MSDS

危険・有害性などの評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには注意してご使用ください。